

開会の挨拶

松 本 紘（京都大学総長）

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました、京都大学総長の松本です。今回、第18回を迎えます大学教育研究フォーラムの開催に当たりまして、主催大学を代表して一言歓迎の言葉を申し上げたいと思います。

このスライドにもありますように、本フォーラムも18回を積み重ねてきておりますが、大学教育に関わる相互研修型の場として定着してきております。昨年はちょうど震災直後、日本全体が大変厳しい状況に置かれているときに開催させていただきました。その厳しい状況のなかで、約440名の方にご参加いただき、大変熱心な議論が行われたと伺っています。本当にありがたいことです。今回も、約500名の方が全国からお越しいただいているのではないかと思います。今年も、さらに熱心にご議論いただきたいと思います。

大学教育改革ということは、言われ始めて久しいのですが、だんだんと熱がこもってきています。特に昨今財政事情が国として大変厳しい折から、どの大学も予算的に非常に厳しい状況に置かれているかと思います。そのなかで、大学は人を育てる意味で大変重要な役割を担っておりますから、できるだけ予算の削減をしないようにという動きを大学群としては働きかけてきています。その都度「それでは大学教育は改革が進んでいますか」といろいろな方面から言われます。これは財務省からだけではありません。社会全体から大学に熱い視線が集まっているということです。それだけに、大学教育改革に関わって、FDの議論を中心に熱心な研究交換を進めていただいていることは大変うれしく思うところです。

「FD」ということを大学の人に聞けば、大学の教育改革、あるいはもう少し広義に考えますと、研究や運営に関しでの研修までも含めて、大学教員がお互いに向上し合うことという答えが返ってくることになるかと思いますが、一般の人にFDと言ってもなかなかわからないのではないかと思います。「FD」を調べてみますと、フロッピーディスク以外にもたくさんあることがわかります。コンピューター関係ですと、ファイルディスクリプタという言葉があり、ファイルの識別子をFDと言っているようです。それから、演劇関係者に「FD」と言うと、フロアディレクター（演出助手）。それからテレビを見ていますと、LA（ロサンゼルス）の「FD」といった言葉が出てくることがありますが、それはファイアー・デパートメント（消防隊）です。カメラ好きな人はご存じだと思いますが、キヤノンの一眼レフにはFDマウントレンズが使われていました。

このように「FD」は随所に使われていますが、大学教育改革のFDは、最近目覚ましく伸びて多くの人々に使われるようになってきたのではないかと思います。少なくとも、ここにおられる方々はFDと言うと、まず最初に教育改革に関わるFDのことを念頭に置かれるのではないのでしょうか。

今回のプログラムを少し拝見しましたが、個人発表が随分増えていまして79件ありました。大変多い数で驚いておりますが、素晴らしいことだと思います。また、小講演が8件、ラウンドテーブルが10件あり、非常にアクティブに参加していただいて、相互に啓発し合うという仕組みになっているのではないかと思います。大学教育に対するFDの取り組みについては、教員だけではなく、教育を支援する大学のスタッフ、職員、教育の対象でもあり教育の一部に手を貸す大学院生、それから教育を受ける立場の学生、そういった人々が密に連携してはじめて成果が上がるもののご理解いただいていると思います。私もそのように思います。そういったなかで、大学教育をどうするか、そのあり方や教育方法に関して、学問としてとらえようということで、わが大学の高等教育研究開発推進センターでは、田中毎実センター長を中心に、しっかりと取り組んでいただきました。この会の直前に『生成する大学教育学』という表題の本を頂きましたが、まさに、大学教育を研究の対象とした一つの成果であると思います。そういう意味で、このフォーラムも大変有意義な大学教育に関わる研究交流の場であろうと思います。このフォーラムは、その理念に基づいて、田中毎実センター長の下、高等教育研究開発推進センターのミッションとして積み重ねてきているのですが、大学にも、そして全国の皆さまにも、大変大きな貢献をしていただいたと思っています。

田中毎実先生にはこの後、基調講演をしていただくことになっています。タイトルは「相互研修型FDの総括—こ

れまでとこれから—」です。田中先生はこの3月で定年退職され、センター長も退任されます。素晴らしいと思ったのは、「これまで」というのは分かるのですが、「これから」と書いてありますので、ますますご活躍いただけるのではないかと大きな期待をしているところです。田中先生がよくお使いになる「相互研修型FD」という言葉は、「お互いに」という意味が入っていますが、大学教育では、いろいろな面でいろいろな事柄が複雑に絡み合ってさまざまな課題が生じることになりますが、それらを解決するためには、研修で一方的に上から講演を行い、それを聞くだけでは不十分であると主張しておられます。お互いがお互いに持っている知識、あるいは技術を交換してはじめて、それぞれの個々人が伸びていくということだと思います。相互研修型のFDは、これからどんどん世の中に広まっていく考え方であると思います。

「相互研修型FD」には、京大らしいといえば京大らしい「対話」がなかに入っていますが、京都大学のミッションの一つにも「闊達な対話」という言葉が入っています。研究者相互間、研究者と学生、あるいは職員と教員、教職員と学生など、いろいろな立場の違う人が闊達に対話をする中で、本学では教育の在り方や研究の進め方を議論してきたわけですが、そういう意味で「相互研修型」というのは京大らしい名前であると思います。さらに、田中先生が退任される機会に、高等教育研究開発推進センターの「これから」がもう一皮むけていただけるようお願いしたいと思います。

今日は、お忙しいなか、文部科学省高等教育局大学振興課改革室長の樋口聡様にお越しいただいております。ありがとうございます。文部科学省のご理解を得まして、田中毎実先生が中心になって進めてこられた本学の特別経費プロジェクトに応援をいただいております。その成果を受けて、平成22年から教育に関する全国の利用を行うためのセンターに発展することができました。「教育関係共同利用拠点」という硬い名前が付いておりまして、タイトルは「相互研修型FD共同利用拠点」となっています。このフォーラムでも、このあとのシンポジウムでは相互研修型FDがテーマとして取り上げられていますが、その議論を通して、くだけた表現を用いますと、全国の方々にセンターを「使い倒して」いただけるほどに本当にいいものにしていこうという心意気であるかと思います。それはまた、文部科学省からの力強いご支援があってこそのものであり、あらためてお礼を申し上げたいと思います。

連携といいましても、私とあなた、君と僕という個人的な連携もありますが、大学と大学の連携も当然あります。それからもう少し広がりますと地域にある大学、例えばここですと関西地域の大学間の連携も当然あるかと思いますが、もう少し広がると、全国。さらに教育ですから、今や教育に国境はないという時代に突入しようとしていまして、学生の流動性も高まり、各大学にはたくさんの留学生が来るようになってきていると思います。本学でも今1700名ほどの留学生がいますが、そういった留学生を対象にした教育に関わるFDもこれからの重要な課題になると思いますし、その点では、外国の教員と教育に関して相互研修するというフェーズもあるかと思いますが、こういった様々なスケールやレベルのFDが想定されますが、本フォーラムは全国からお集まりいただいておりますので、全国レベルのFDの相互研修ということで、非常に闊達な議論がここで行われることを期待したいと思います。

うちの大学はこうしている、うちの大学はこういう問題があるということをそれぞれの立場で考えておられると思いますが、意見交換をしていただいて、少しでも全国的にFDというものの在り方が定まっていくように、そして先ほど申し上げたように、これが一つの学問として、大学の教育の仕方そのものを学問対象とするような幅まで広げて大いに取り組んでいただければありがたく、個人的にもそれに大いに期待を寄せているところです。このフォーラムにおいて、皆さま方がお帰りになるときに、来てよかったと感じていただけるよう、ぜひともいろいろ忌憚のないご意見を交換いただき、一つ、二つと言わず、たくさんの成果をお持ち帰りいただきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました（拍手）。

（溝上） 松本総長、どうもありがとうございました。それでは時間も押しておりますので、早速、田中先生の基調講演に移りたいと思います。田中先生、どうぞご準備ください。

先ほど申し上げましたように、この3月で田中先生は定年を迎えられます。第18回と数字を見てお分かりのように、センターは毎年このフォーラムをやってきております。1994年から18年取り組んでおりますが、そのオープニングスタッフとして田中先生を中心にセンターが進めてきたFDの形態を、私たちは「相互研修型FD」と呼んでまいり

ました。松本総長もおっしゃったように、この4月から新体制で、新しくセンターの活動を1段も2段も上へと発展させるべく、今日の午後のプログラムが用意されております。私たちのセンターだけの総括という意味ではなく、相互研修型FDは、私たちセンターから全国の大学教育機関に一つのFDの形態、取り組み方として推奨してきたものでもあるので、そのような意味で私たちのセンターの総括をすると同時に、全国のFDの形態も併せて再検討したい、そして、4月以降の新しい発展につなげたいと考えてのプログラムです。1時間というやや短い時間ではありますが、田中先生に基調講演をいただき、15分の休憩を挟んだ後、センターの取り組みをよく理解されている6人の関係者からパネルディスカッションでコメントをいただき、5時まで行います。長丁場ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、田中先生よろしくお願いいたします。